

## 環境倫理の諸問題（3）

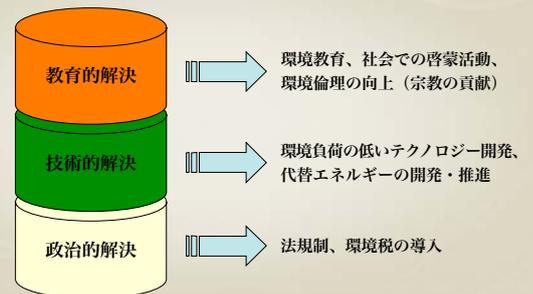
### Overview

- \* 環境問題の認識
- \* キリスト教と環境問題をめぐる歴史的背景
- \* 環境問題に対するキリスト教の応答
- \* **まとめ——課題と展望**

### まとめ——課題と展望

- 1) 様々な日常的取り組みの必要性
- 2) 自然の生存権への視座
- 3) アニミズムの復権というディスコースに対する批判的洞察
- 4) 環境文化の形成
- 5) 公共性の再解釈
- 6) 世代間倫理の形成と宗教の役割

### 1) 様々な日常的取り組みの必要性



### 2) 自然の生存権への視座

- \* 動物・自然の権利の拡張
- \* 新たな自然理解と**アニミズム**の違いは？
- \* アウグスティヌス「動物を殺し、植物を減ぼすのを差し控えることは迷信の極みだと、キリスト自身が教えている。なぜなら、われわれと獣と木のあいだには何ら共通する権利がないものと判断したので、かれは悪霊どもを豚の群の中に入り込ませたのであり、また実を結ばないでいる木を呪って枯らしたのである。」
- \* キリスト教神学における**汎内在神論 (panentheism)**への関心の高まり

### 3) アニミズムの復権というディスコースに対する批判的洞察

- \* 日本のアニミズムや多神教的考えによって問題解決できるという言説は、ほとんどの場合、歴史的実証性を欠いた**文化ナショナリズム**に過ぎない。
- \* 自然や動物への「畏怖」を、どのようにして回復するのか。呪術的な方法によるのではなく、科学的な方法で。
- \* 手がかりとしての「**生物多様性 (biodiversity)**」

#### 4) 環境文化の形成

自然的環境

社会的環境

精神的・宗教的環境



#### 現代における構造的問題

生産の場

消費の場

#### 現代における構造的問題

生産の場

消費の場

自然的環境

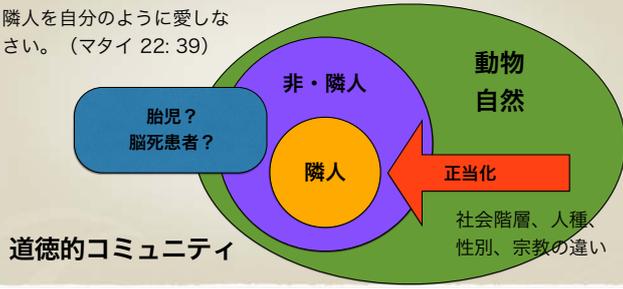
社会的環境

精神的・宗教的環境

環境文化

## 環境文化とコミュニティ

隣人を自分のように愛しなさい。(マタイ 22: 39)



## 5) 公共性の再解釈

\* 宗教共同体は「公共性」や「公益性」の意識（共同体倫理）を新たにする潜在力を有している。その力を発揮するためには、近代精神に規定された、すなわち、**現代世帯の利益を最大化**することを前提とした「公益性」や「公共性」を批判的に検証し、過剰に**人間中心的でもなく、現代世帯中心でもない公益理解（公益の宗教性）**を再発見・再解釈する必要がある。

\* 日本宗教の場合、世代間の権利関係を越えて、生者と死者の関係、生命・非生命の関係にまで議論を広げることができるポテンシャルを有している（→ **非存在者への倫理**）。

## 6) 世代間倫理の形成と宗教の役割

\* **記憶のエシックス**：膨大な情報に取り囲まれながら、しかしそれゆえに記憶喪失に陥りやすい現代社会において、世代を超えて、場合によっては何世紀にもわたって、出来事や記憶を継承する作法を伝統宗教は持っている。

